

地域世代間交流プログラムの実施による地域創成人材の育成

社会科学部 経営社会学科



教授 井勝 久喜



3年 高山 眞紀子

共同研究者名

准教授 森野 真理 講師 大下 朋子

1. はじめに

地方（特に中山間地域）の疲弊が進行している現在において、今後どのように地域経営をしていくのか明確なビジョンを作成するとともに、多様な人を結びつけてビジョンを実現することができる人材が必要となっている。地域の課題はそこに住む人が解決策を考える必要があり、地域の中に人材が必要であるが、実際には、一部の地域を除き人材が不足している。

本事業は、地域に住む若者や大学生が地域の先達と交流するワークショップを開催することにより、若者や大学生が地域の課題について理解するとともに、多くの人を巻き込む力やファシリテーション能力を備え、社会的活動や地域活動に積極的に関わり、社会に対して自ら働きかけができる人材を育成することを目的としている。

2. 実施内容と結果

社会に働きかけができる種々の能力を身につけた若者を育成するため、学生が実行委員会を組織し、学生が自ら企画立案および運営をおこなうワークショップ型のフォーラムを「エデューカーレ in たかはし」という名称で5回開催した。

フォーラムは、井勝研究室の2年生と3年生11名の学生が実行委員となり、実行委員長を中心に、フォーラムのテーマ設定、プログラムやワークショップの内容の検討、プログラムの試行などの事前準備を行った。当日は、会場設営から、フォーラムの運営、司会進行及びファシリテーションまで全て学生実行委員が担当した。5回開催したフォーラムの概要を以下に示す。

第1回エデューカーレ in たかはしは「X年後の未来 ～あなたの笑顔を探してみませんか?～」というテーマで、岡山におけるフューチャーセッションの第一人者である林俊克先生（就実大学）をお招きして、システムデザイン思考の新しいタイプの会議・話し合いの手法であるフューチャーセッションを体験した。

第2回エデューカーレ in たかはしは「消えてたまるか中山間」というテーマで、地域活性化に関わっておられる3人のゲストをお招きして、地域活性化に関する3つテーマについて、ゲストと参加者双方向のトークセッションを行った。

第3回エデューカーレ in たかはしは「高梁でエネルギーの未来を考える～あなたが選ぶエネルギーは?～」というテーマで、市民が電力会社を立ち上げるという映画「シエーナウの想い」を鑑賞した後、高梁でエネルギー供給会社を立ち上げることができ

るかどうかについて意見交換を行った。

第4回エデュカーレ in たかはしは「地域における政治の役割 ～理想と現実！政治の世界を垣間見る～」というテーマで、8名の高梁市議会議員の参加を得て、政治について3つのテーマでディスカッションを行った。

第5回エデュカーレ in たかはしは「地域の先達に学ぶ～生き方のヒントを探しませんか～」というテーマで、地域で活躍されている5名のゲストをお招きして生き方について4つのテーマでディスカッションを行った。

5回のフォーラムの総参加者数は165名であった。図1にフォーラムの満足度とスタッフの動きについてのアンケート結果を示した。いずれも5点満点で回答してもらった。なお、満足度は第1回の時には聞い

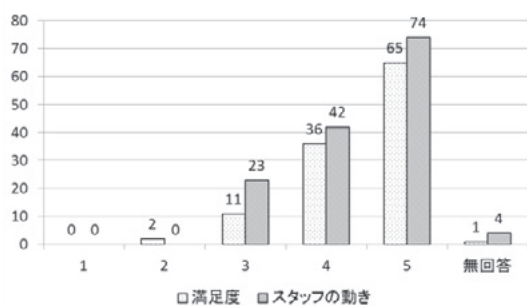


図1 満足度とスタッフの動きについての回答

ていないので、4回分の回答である。総回答者数は満足度については115名、スタッフの動きについては143名である。満足度、スタッフの動き共に同じ傾向であり、5点の回答が多く、4点と5点で8割以上を占めていた。参加した多くの人がこのフォーラムに満足していることがうかがえる。

3. 考察

本研究では、地域創成の担い手となる人材の育成を目的として、5回のフォーラムを開催した。5回ともワークショップ型のフォーラムとしたが、アンケートの感想記述欄に記載されていた内容から、ワークショップを体験することにより、多くの人を巻き込む力やファシリテーション能力の必要性を参加者が理解したように思われた。また、実行委員である学生は、フォーラムの開催により、企画力、課題解決能力、実行力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、地域創成に関わる時に必要な知識と能力を身につけることができたと思われる。

高梁地域に在住している若い人の参加が少なかったことが反省点であるが、社会に対して自ら働きかけができる人材を育成するためにはこのようなフォーラムの開催が有効であることが明らかとなった。